

Transmigration

2011年 たちばな 橘 きりゅう 木竜

ア レ ハ…

冷めている視覚に
遺された火の香舞い
明けた身に突き刺さる
駆けている科学に
愛された理の血這い
髓の奥焼きついた

器械は揺れ時間は逆巻き
セピアを敷かれ「私」は消えた
流れた火に華の根濡らされ
闇夜を搔かれ兆しは開いた

たざらせた兆したどり

浮かんだ^{たま}球で迷っている

科学満たす証もなく
ずれ出た影が差し出てきた

コ レ ガ…

“薫り立ツ髪ノ香
斬り裂キタ血ノ香交ヒ
果テタ場二墮チタ姫
荒立チタ天下二

断チ散リタ^{トワ}永久二泣キ

祈リ捨テ「^{イマ}刹那ノミ」ト”

器械は揺れ時間は戻され
カラーを引いて火の目が語る
“イナキタ馬” “否ビタ信仰”
旅路に影は日差しをかけた

たぎらせた兆したどる
浮かんだ球はつなげられ
影が焚いたバイクの音に
鳴かれて鳴かれ飛ばしていく

たぎらせた兆したどり
つなげた球に明かりが点き
満たす証見えないけど
あふれた涙 理の血は燃え
たぎらせた兆したどり
つなぎた橋は明かりに満ち
我は焚きたバイクの音を
啼かせて啼かせ真理へ発つ